

令和5年度  
東中学校後期学校評価

ふるさとを愛し

ふるさとの人々からも愛される

子どもたちの育成



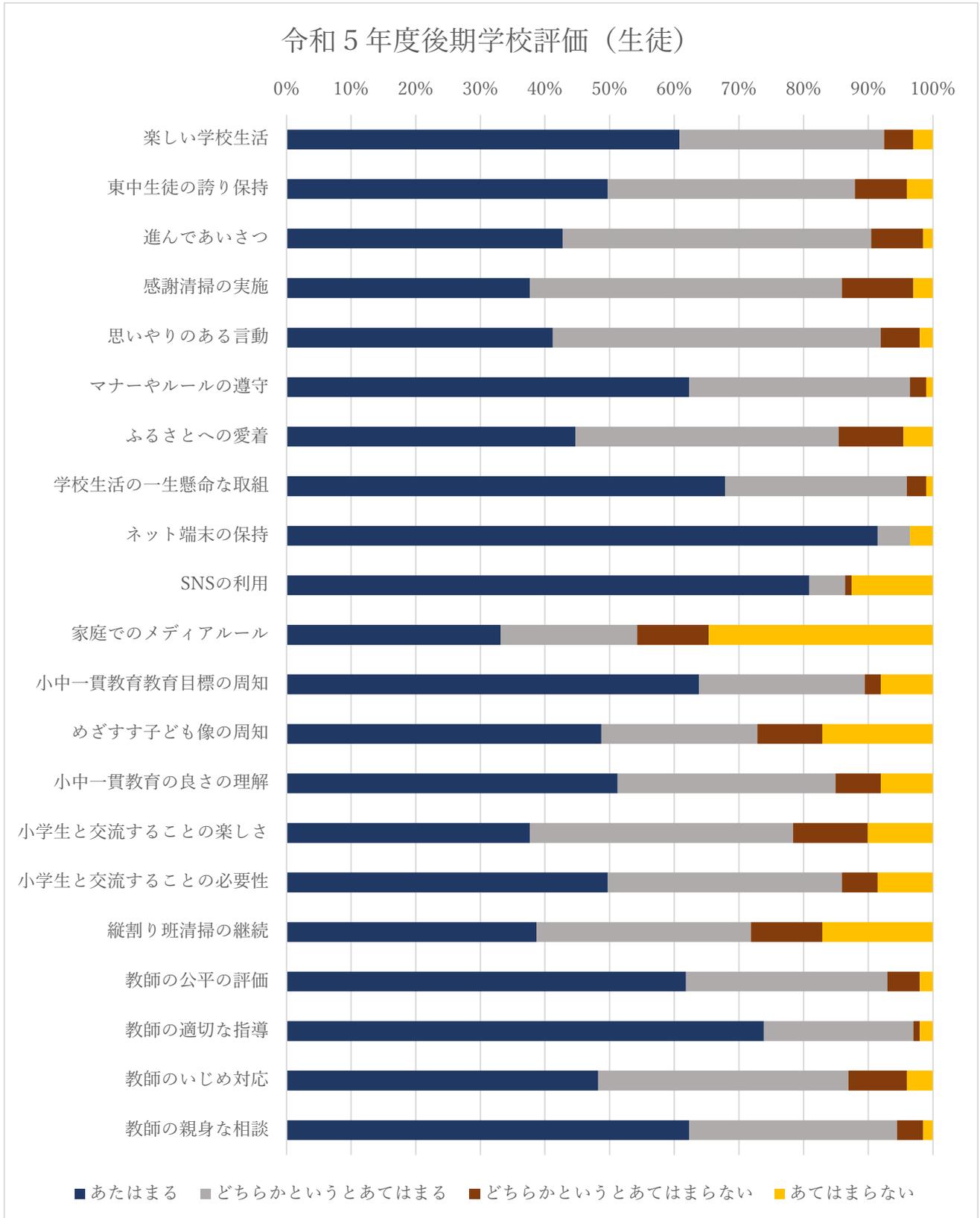
岩国市立東中学校

## 目 次

後期学校評価(生徒)	.....	1
後期授業評価(生徒)	.....	2
生徒評価の考察	.....	3
後期学校評価(保護者)	.....	5
保護者評価の考察	.....	6
後期学校評価(教職員)	.....	8

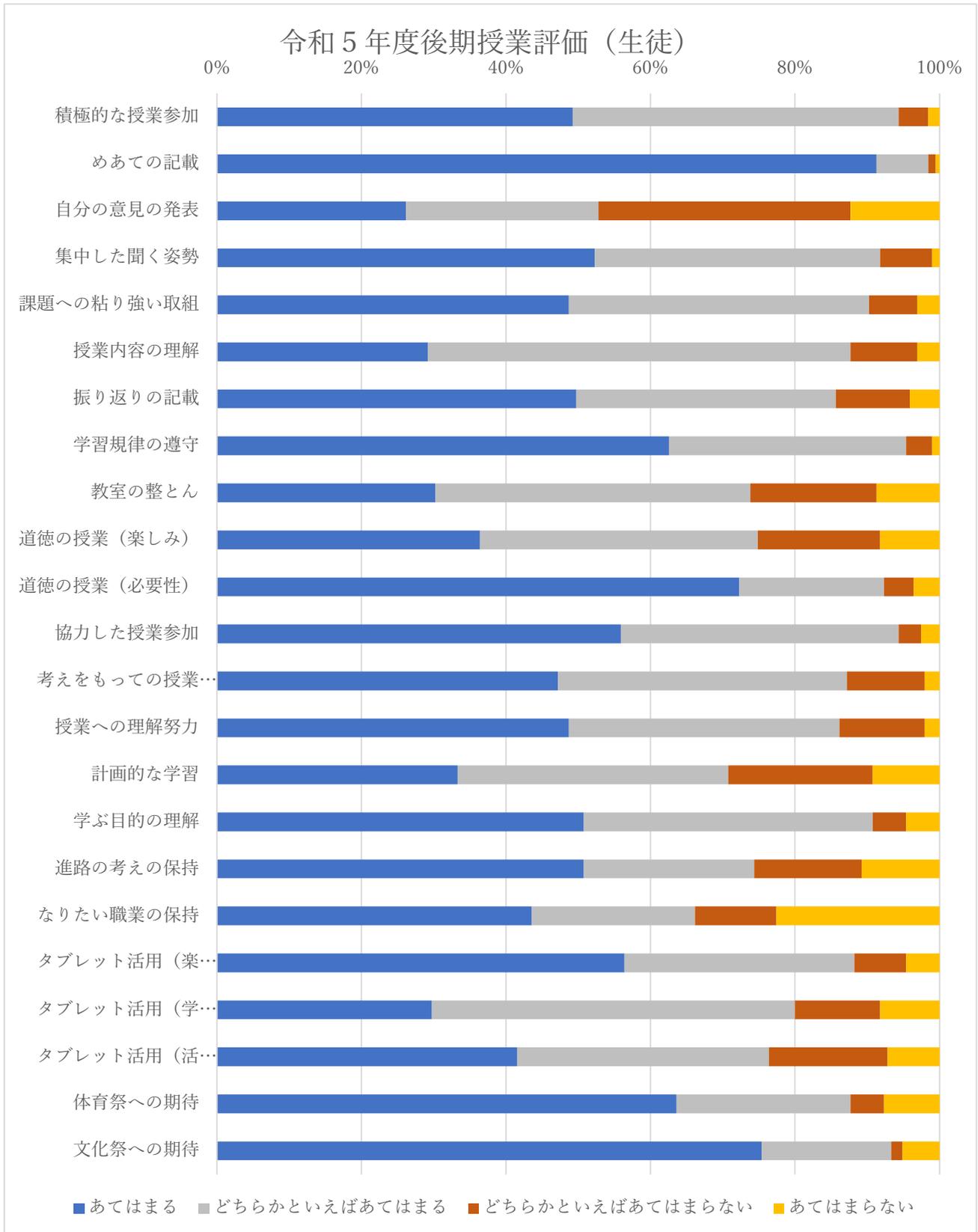
令和5年度後期学校評価 生徒用 集計結果 2024.1

総回答数 199



令和5年度後期授業評価 生徒用 集計結果 2024.1

総回答数 195



### 【考察】

○全般的に、どの項目に対しても、肯定的な意見は、9割程度あり、令和5年度前期と比較しても、大きな違いが見られなかった。

○3ポイント以上向上している項目については、「小学生と交流することが楽しい」と肯定的に回答している生徒が、前期比較5.5ポイント向上しており、「小学生と交流することが必要である」とか回答している生徒は、前期比較4.6ポイント向上している。

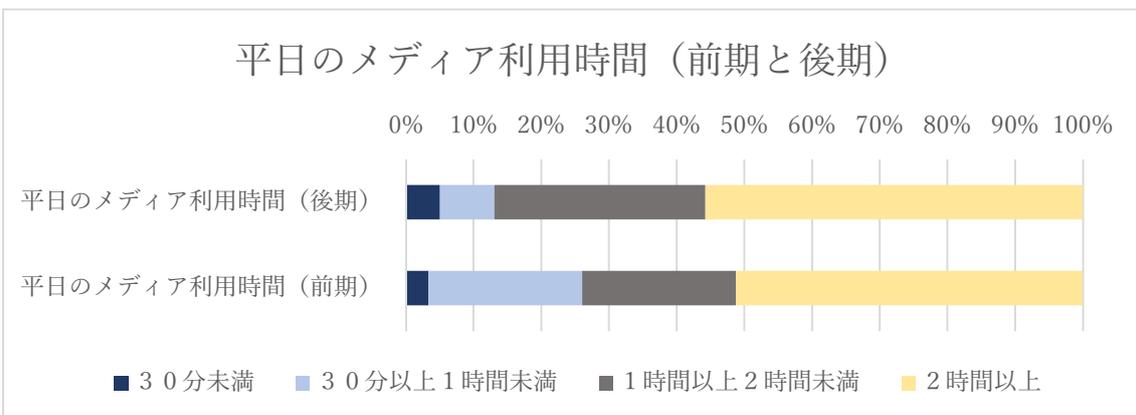
今年度の生徒会が「小学校との交流を深める」ということを目標に取り組んできた。その結果、生徒自身が小学校との交流に楽しさを見出すとともに、必要性を感じるようになったと要因の一つと考えられる。この結果を生徒に伝えることで、さらなる小学校との交流の深化につなげていきたいと考える。

○2年目の取り組みとなる縦割り班清掃を継続するべきと考えている生徒は、前期と比較して、4.5ポイント減少している。交流は楽しい、必要であると考えている生徒が増えている反面、実際の交流活動の一つである縦割り班清掃については、積極的でない傾向がみられる。縦割り班清掃は、定期的に小学生と中学生が活動する貴重な機会であるため、その意図や有効性について、委員会等を中心に啓発が必要である。

○タブレットやゲーム機などメディア利用時間について、1時間未満の利用生徒は、1割程度であり、前期と比較しても大きく減少している。特に、1時間以上2時間未満が増えているとともに、2時間以上利用している生徒は、5割を超えている。家庭で過ごす限られた時間の中で、2時間以上メディアを利用した場合、学習時間や睡眠時間の減少につながり、学校生活に大きな影響を及ぼすことが考えられる。

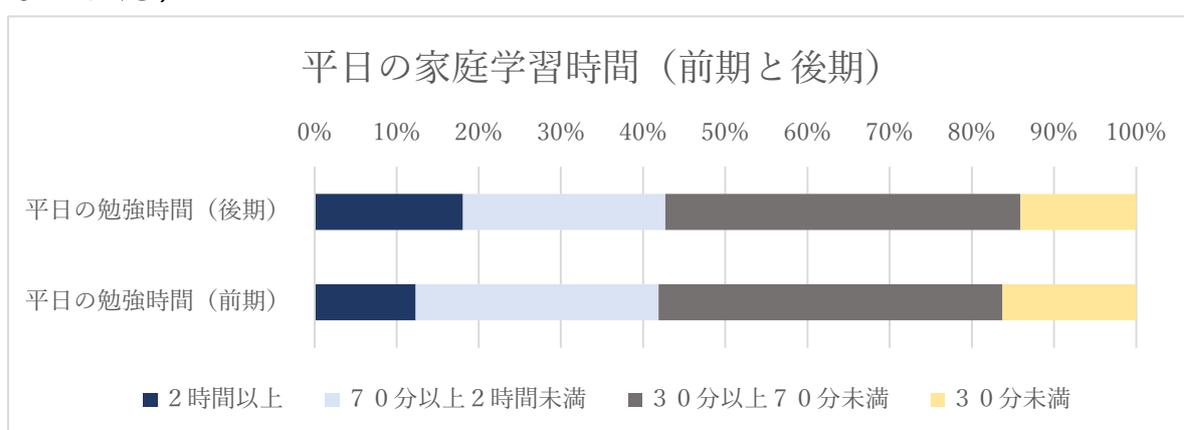
また、保健安全委員会で、講演していただいた田中秀樹教授からも、成長期の睡眠は、極めて重要であると指摘を受けており、健康面や学習面からも質の高い睡眠をとることは、必要不可欠である。

加えて、家庭でのメディアルールについて、家庭で定めているとした生徒は、前期と比較して、5.8ポイント減少していることも危惧される点である。



○家庭学習時間については、令和4年度後期の調査と同様に、時間が長くなっている。このことは、9年生が受験勉強のため、家庭学習時間が長くなっていることに起因している。

しかしながら、メディアの利用時間は、9年生においても、さほど変わっていないため、勉強時間が長くなり、メディア利用時間は、変わらないという状況は、睡眠時間等の生活に必要な時間が削られているとも考えられる。もちろん、9年生は、部活動が終わったため、比較的家庭で過ごす時間が長くなっていることも、その要因として考えられる。(家庭学習時間が長くなっていることは、遊ぶためではないため、有益な過ごし方については、家庭と協力しながら、継続した情報発信が必要となってくる)



○授業評価について、どの項目も肯定的な移管が9割程度あった。前期の学習評価と比較しても、大きな変化はみられなかった。

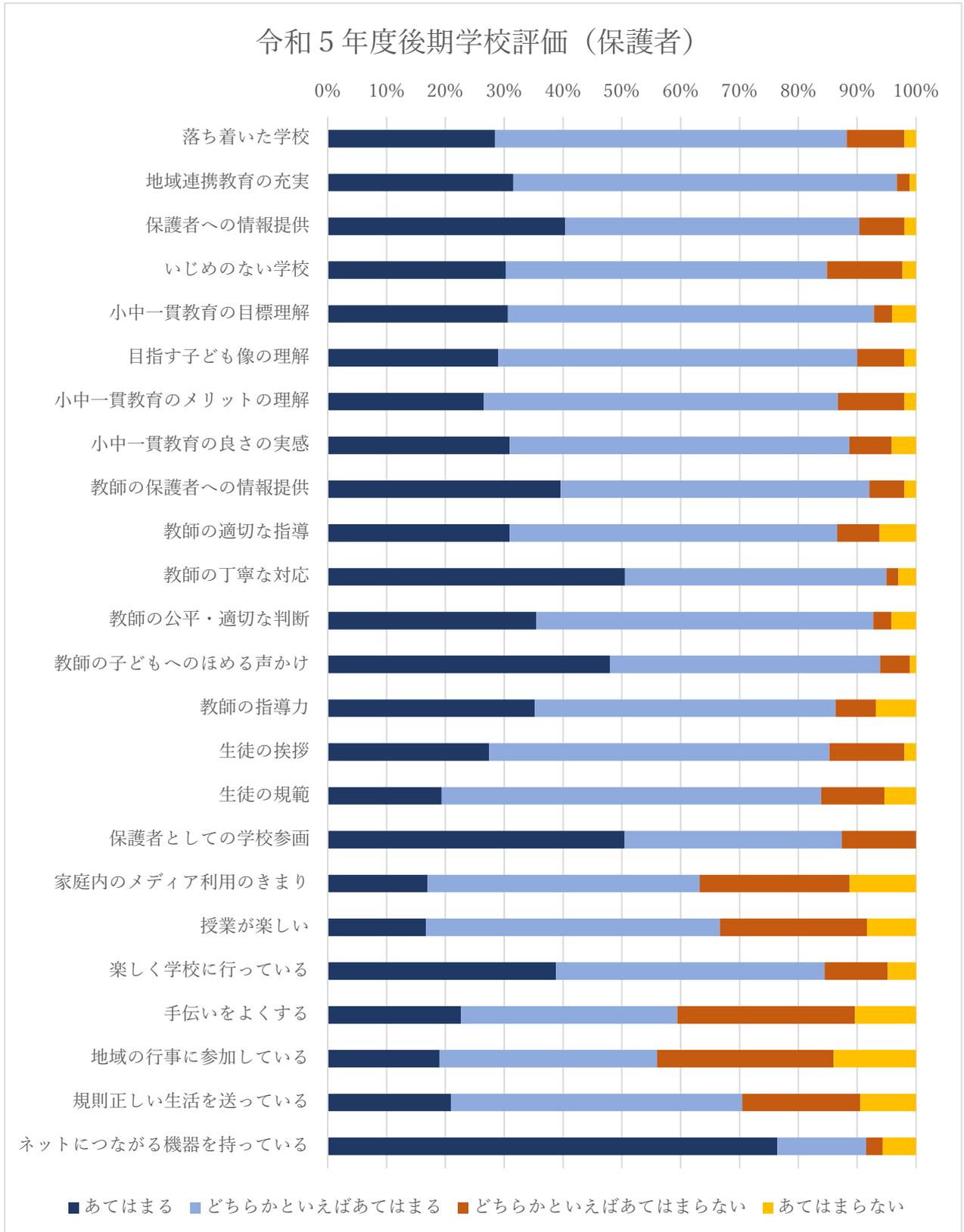
○質問項目の中でも、中学校卒業後の進路を考えているとした生徒が、前期と比較して、10.4ポイント向上している。このことは、9年生の進路に関わる意識が非常に高くなっていることが、一番の要因である。7年生での職業講話や8年生での職場体験を実施するなど、7年生から進路について考える授業を行っている。これまでのように、進路を主体的に考える授業を継続して実施する必要がある。

○タブレットを利用することで、理解が深まるとした生徒は、前期と比較して、3.3ポイント向上している。タブレットを活用した授業が日常化している一つの表れであると考えられる。

○授業中に自分の考えをもって、授業に参加しているとした生徒は、前期と比較して、5.4ポイント減少している。また、授業中に教師や友達の話を中心して聞くと回答した生徒は、4.5ポイント減少している。この2点は、授業を受ける基本的かつ重要な姿勢であるため、魅力ある授業づくり、生徒が主体となった授業づくりといった今求められている授業をさらに進化させる必要がある。また、これまでのように、基本的な学習規律等を生徒自らがその重要性を発信するなど、主体的に授業態度を高めていく取り組みが必要である。

令和5年度後期学校評価 保護者用 集計結果 2024.1

総回答数 122



## 【考察】

○前期と比較して、大きな変化は見られず、肯定的な評価は、8割前途である。この傾向は、昨年度より「分からない」という選択肢を加えたことに起因していると考えられる。「分からない」を除くと、肯定的な評価は、9割前後となり、これまでの学校評価と同様の傾向となる。

○ただし、「分からない」と答えた保護者は、学校の状況が伝わっていないという学校の情報発信に関わることであり、情報発信の改善に引き続き取り組む必要がある。今年度は、ホームページの更新も定期的に行っているが、何を更新するのか、ニーズに沿った情報の発信の在り方を考えなければならない。

○地域連携教育の充実については、前期と比較して、3.5ポイント向上しており、コロナ禍明けで、地域の行事も本格的に復活したことにより連携ができていると感じている保護者が増えたと考えられる。

○教師の公平・公正な評価が前期と比較して、3.5ポイント向上しており、教師の子どもをほめる言葉がけも、同様に3.5ポイント向上している。他の項目についても、大きな変動はなく、教師の寄り添う姿勢や評価が生徒を通じて、保護者にも伝わっていることがわかる。

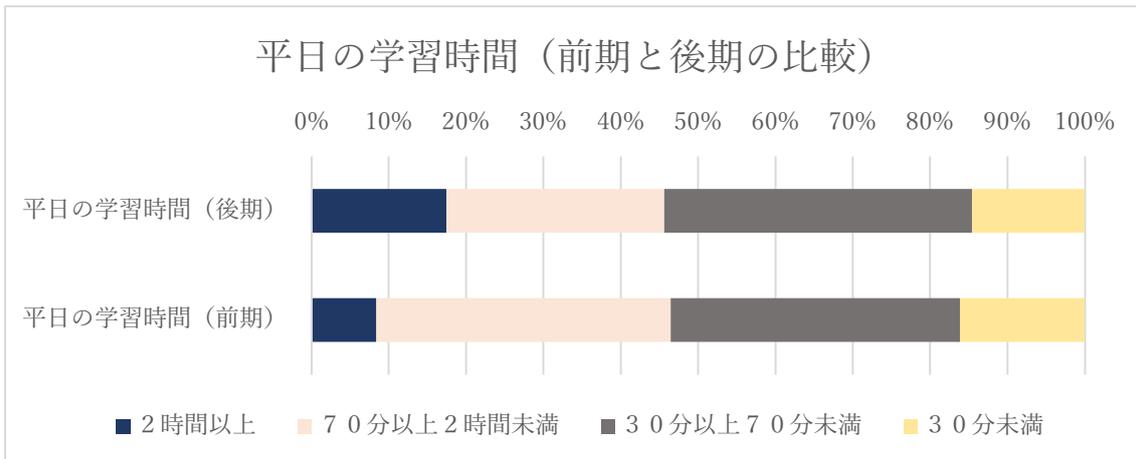
○落ち着いた学校であると回答した保護者は、前期と比較して、6.8ポイント減少している。多くの生徒は、落ち着いて学校生活を送ることができているものの、落ち着きのない状況に陥ることもある。この点については、大きな学校課題であり、学習や行事活動に真摯に取り組む生徒の育成及び学校の雰囲気づくりに向けて教職員が一丸となって、取り組んでいく必要がある。

○保護者への情報提供については、前期と比較して5.1ポイント減少している。学年だよりや学校だよりを通じて、広く情報の発信をしているが、先述したホームページ等を活用した情報発信の必要性が高まっていると思われる。生徒や保護者にとって必要な情報の適切な提供に努めたい。

○平日の学習時間については、生徒と同様に保護者も子どもの学習時間が全体的に長くなっているととらえている。この背景としては、生徒のアンケートと同様に、9年生の受験勉強に向けた学習時間の増加が要因として考えられる。

しかしながら、「30分以上70分未満」「30分未満」といった望ましい学習時間より短い生徒の割合は、変わっていない。このことは、家庭学習の習慣がない生徒については、受験においても、学習時間に大きな変化が見られないことであり、平素からの学習習慣が重要であると考えられる。

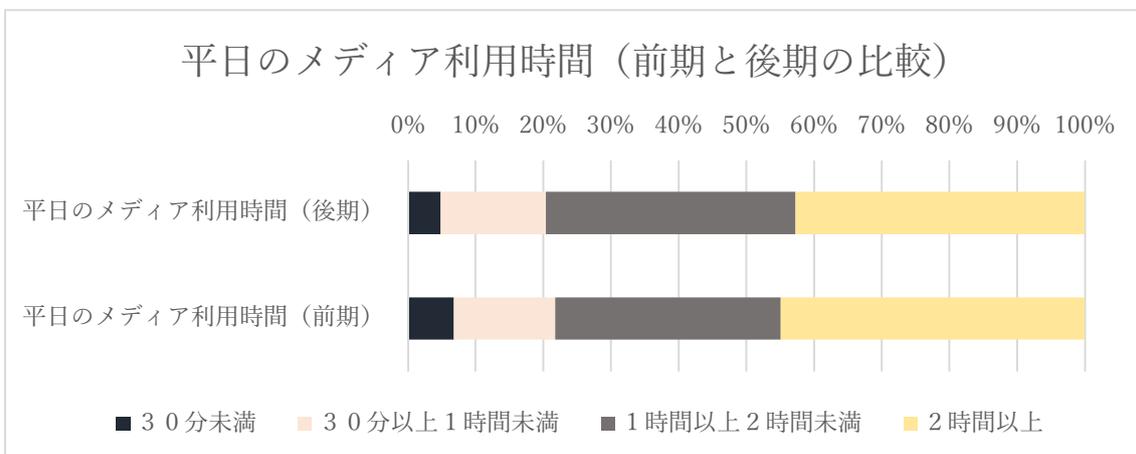
同様の傾向は、生徒のアンケートからも明らかになっており、生徒の回答も、「30分以上70分未満」「30分未満」といった望ましい学習時間より短い生徒の割合は、前期とあまり変わっていない。



○保護者の回答からは、メディア利用時間については、1時間未満の割合が若干減少しているものの、大きな変化にはなっていない。しかしながら、実際にタブレット等を使っている生徒自身の回答が、現実的な数値であるため、保護者と生徒には、利用時間に対する認識の違いがある。

すなわち、1時間未満の利用であると思っている保護者は、後期において、2割程度であったのに対して、生徒は、1割強が1時間未満と答えている。この半年で、急激な利用時間の増加であり、非常な危機感を抱いている。

適切な利用時間が、どのように守れるのか、家庭におけるメディア利用のルール  
の策定も含めて、学校と家庭が連携していく必要がある。



令和5年度後期学校評価 教職員用 集計結果 2024.1

総回答数10

